

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲第 1252 号	氏名	小林 秀 樹
論文審査担当者	主 査 山田 充彦 副 査 柴 祐司 ・ 瀬戸 達一郎		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>左房のリモデリングが進行している持続性心房細動 (psAF) 症例においては、カテーテルアブレーション (CA) 後の再発率は依然として高く、術前に再発の程度を予見しておくことは、治療方針を立てる上で重要である。CA 前に施行される経食道心臓超音波検査において、心房中隔 (IAS) は、心拍動に伴い振幅運動をしている様子が観察される。この IAS 運動の低下は、左房圧の上昇と関連しており、左房のリモデリングの推定に役立つ。そこで、本研究では、IAS 運動の低下が、CA 施行後の psAF の再発と関連しているか調査し、再発を予測するパラメータになりうるか評価することを目的とした。</p> <p>その結果、以下の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">測定された IAS 運動の中央値は 4.1 mm (四分位範囲: 2.4-5.4 mm) であった。高 Body mass index、左房容積増大、左房圧上昇、IAS 運動低下が、psAF の再発に関連しており、多変量解析において、IAS 運動の低下は、CA 後の psAF 再発に関する独立した予後予測因子であった (OR: 0.66、95% CI: 0.49-0.88、$p=0.005$)。カプランマイヤー分析において、IAS 運動低下群 (IAS 運動 <4.2mm) は、IAS 運動保持群 (IAS 運動 ≥ 4.2mm) に比べ、有意に AF の再発率が高かった (log-rank 検定、$p=0.001$)。IAS 運動は、左房容積、E/e' との間に負の相関、左心耳血流速度との間に正の相関が認められた。IAS 運動低下群は、IAS 運動保持群よりも、有意に左房圧が高かった。 <p>以上より、本研究では、IAS 運動の低下が CA 後の psAF 再発と関連していることが明らかになった。IAS 運動は、AF の再発に関連するとされる他の心臓超音波検査上のパラメータと相関しており、IAS 運動が低下した患者は、IAS 運動が保持された患者よりも左房圧が高かった。これらの結果から、IAS 運動の低下は、左房のリモデリングの進行を反映したパラメータであり、CA 後の AF 再発の予後予測因子である可能性が示唆された。IAS 運動は、CA 術前に容易かつ非侵襲的に測定することが可能であり、その結果が CA 後の AF 患者の治療の一助となることが期待された。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			